

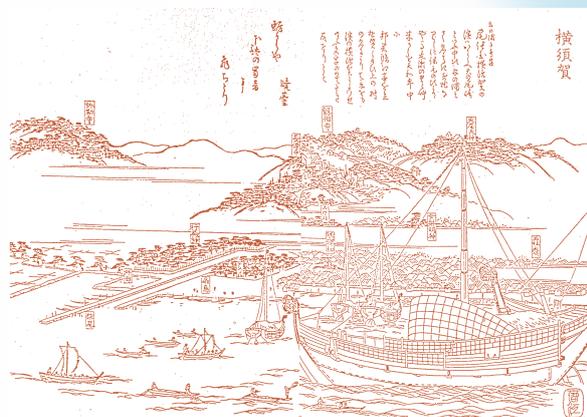
# 1

## 地区の歴史・生い立ち

### 江戸期

#### 往時の町割り・祭りが今もそのまま残る

- 1666年 二代尾張藩主徳川光友が横須賀御殿を造営
  - ・馬走瀬（寒村集落）⇒御殿造営により横須賀町方へ改名（1675年）  
⇒以降、城下町としての扱いを受け繁栄
- 1700年 光友の死去とともに御殿取壊す
- 1742年 愛宕神社、玉林寺から、現在地（扇島の松林）へ移座
- 1783年 御殿跡に横須賀代官所設置（名和村～現南知多町までを管轄）
  - ⇒行政の中心地として人口急増
  - ⇒常滑街道や港を背景に、商業地としても飛躍的に発展
  - ⇒この頃、横須賀まつり（山車まつり）がはじまる



### 明治～大正～昭和期（戦前）

#### 町方が東海市（旧横須賀町）の起源

- 江戸期とまちの広がりには大きな変化がない中で、町方はさらに繁栄
  - ・本町筋には、紺屋、木綿問屋、知多酒の蔵元、旅籠屋、料亭が建ち並ぶ
  - ・石油ランプの門灯（「ランプに灯を入れて回る法被姿の若衆には一種のロマンが漂い、町方ならではの風物詩」：市史）
  - ・知多半島北西部の商業の中心地として活発な経済活動が展開され、衣浦銀行、尾張銀行、中埜銀行（東海銀行）など名古屋及び知多半島地域に本店を持つ銀行が進出
- 横須賀町方⇒明治11年 横須賀村⇒明治22年 横須賀町（役場設置）
  - ⇒明治39年 大田村、加木屋村、高横須賀村、養父村と合併し横須賀町となる

### 昭和期（戦後）

#### まちの姿が大きく変貌～繁栄からまちの活性化が課題となる～

- 埋立により臨海部は一大工業地帯へ変貌
- 尾張横須賀駅の開設（大正元年）や道路網整備により、町方周辺では様々な開発、建物立地が進行
  - ・1958年（昭和33） 横須賀センター開店  
（東海市最初の大型小売店、専用バスを運行）
  - ・1961年（昭和37） 横須賀電報電話局開局
  - ・1974年（昭和49） 東海産業医療団横須賀病院（旧横須賀大同病院 昭和20年開院）を東海市民病院として開院（～昭和59年中ノ池新病院完成）
  - ・1979年（昭和54） 尾張横須賀駅西第1市街地再開発事業施行（0.67ha）
  - ・1982年（昭和57） 勤労センター開館、駅西再開発ビル竣工
  - ・1988年（昭和63） 市民体育館開館、元浜公園整備（～平成8年順次供用開始）
  - ・1989年（平成1） 公家緑道工事着工（平成2～7年順次供用開始）
  - ・1998年（平成10） 横須賀本町市街地再開発事業施行（0.25ha）
- 近年では、人口・世帯数の減少、高齢化の進展、空き店舗や空地の発生等が目立つ状況

